

救急技術指導会



日時：令和2年1月22日（水）10時00分～12時00分

場所：西宮市役所 東館8階 大ホール

主催：西宮市消防局

プログラム

救急需要の増大や救急業務の高度化に適切かつ迅速に対応し、市民生活の安全・安心を守るために救急隊員の知識・技術の維持向上は不可欠で、そのため我々消防救急隊は日々研修・訓練を行っています。本日は、この救急技術指導会で各署を代表する精鋭たちが日頃の研修方法や成果を披露します！

1 開 会 式

2 訓練

【第1部】

救急研修方法（救急KYTシートの活用）の紹介

西宮消防署 救急救命士 堺 大輔

【第2部】

シナリオ訓練

	消防署	隊長	機関員	隊員
訓練①				
訓練②				
訓練③				
訓練④				

講師：阪神丹波地域メディカルコントロール協議会事後検証委員長
兵庫医科大学病院救命救急センター 白井 邦博 医師

阪神丹波地域メディカルコントロール協議会事後検証委員
県立西宮病院救命救急センター 池田 光憲 医師

3 表 彰 式

4 閉 会 式

【第1部】

救急研修方法（救急KYTシートの活用）の紹介

西宮消防署

救急救命士 堺 大輔

近年、救急出動件数は全国的に増加の一途をたどっています。複雑多様化する救急現場には傷病者のみならず、その家族や関係者、さらには救助者自身を危険にさらす要因が数多く潜んでいます。救急現場で起こりうる事故を未然に防ぐためには様々な危険要因を予測する習慣を身につけておく必要があります、それらを習得するためのツールの一つとして救急KYTシートを作成したので、その中身と活用法を紹介します。

《MEMO》

【第2部】 シナリオ訓練

訓練①

「夫の様子が変わです！助けてください！」

～あらすじ～

通報を受けて、救急隊が駆けつけてみると、意識状態が悪くなっていて上手く言葉が話せない。

意識状態が悪くなっている原因を探れ…。

《MEMO》

救急救命士の処置拡大により、救急現場で低血糖（※）の傷病者に対してある一定の条件を満たせばブドウ糖を投与することができるようになりました。救急現場でブドウ糖を投与すると血糖値が改善し、意識障害等の症状が回復することが多くあります。

（※）低血糖とは、血糖（血液中の糖分）が異常に低くなることで、発汗、ふるえ、脱力感、思考の低下といった症状を起こし、重症になると意識がなくなり昏睡状態になることもあります。

【第2部】 シナリオ訓練

訓練②

「ハイキングで蜂にさされた！」

～あらすじ～

蜂にさされると、アレルギー反応が起こることがある。その反応が強く出ると、「アナフィラキシーショック（※）」となって、命の危険を伴う可能性もあるが…。 いったいどうすればいいのか…。

《MEMO》

（※）アナフィラキシーとは、何らかの原因で起こったアレルギー反応が全身の複数の臓器に症状が現れることで、さらに血圧低下や意識障害を伴うことを「アナフィラキシーショック」といいます。

症状が急速に進行して重篤な状態に陥り、命の危険を伴う可能性もあるため、いち早く薬（アドレナリン）を投与する必要があります。そのため、あらかじめ薬（アドレナリン）の自己注射製剤を処方されている方もいます。

原因には、食物によるものや、薬によるもの、虫（蜂）刺されによるもの等があります。

【第2部】 シナリオ訓練

訓練④

「なぜ、そんなところに人が倒れているのか!？」

～あらすじ～

急病か!? 事故か!?

きっと、高所から落ちたに違いない…。相当なエネルギーを受けたはずだ。見た目にはわからない内臓の損傷があれば、命に危険が及ぶかも…

「ロードアンドゴー (※)」で搬送して外傷死を避け!

《MEMO》

重症外傷の傷病者に対して早期に救命のための処置治療を行う必要があることから、救急隊には限りある時間の中での確かつ迅速な活動が求められています。

(※) ロードアンドゴーとは、生命維持に関係のない部位の観察や処置を省略し、生命維持に必要な処置のみを行って、一刻も早く外傷治療が可能な医療機関へ搬送するための判断と行動の全体的な概念のことです。

